関西医科大学内科専門研修プログラム
目　　次

＜プログラムの概要＞ 2

1. 関西医科大学内科専門研修プログラムの概要 2

＜内科専門研修プログラム全般に関する説明＞ 2

2. 内科専門医制度の理念と内科専門医の使命 2
3. 内科専門研修の目標 2
4. 内科専門研修の方法 5
5. 内科専門研修の評価 5
6. 修了判定のプロセス 6
7. 専攻医の就業環境 6
8. 内科専門研修プログラムの評価 6
9. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修 7
10. 研修プログラムの管理運営体制 7

＜関西医科大学内科専門研修プログラムに関する説明＞ 8

11. 関西医科大学内科専門研修プログラム施設群概要 8
12. 専攻医の募集と採用方法 9
13. モデルプログラム・週間スケジュール 10
14. プログラム管理委員会委員 12
15. 関西医科大学内科専門研修プログラム施設群紹介 13

1. 関西医科大学内科専門研修プログラムの概要

本プログラムは基幹施設として関西医科大学附属病院（大阪府枚方市）、連携施設として関西医科大学の他の 2 つの附属病院（関西医科大学総合医療センター（大阪府守口市）、関西医科大学香里病院（大阪府寝屋川市））を含めた 54 病院、合計 55 の病院により構成される内科専門研修プログラムです。3 年間で内科専門医としての基本的かつ総合的な臨床能力獲得はもちろんのこと、地域医療に関する研修や、内科各領域の subspecialty 研修など多様な研修により内科専門医の育成をおこないます。

2. 内科専門医制度の理念と内科専門医の使命

2-1：内科専門医制度の理念
本制度における専門研修の基本理念は、指導医の適切な指導の下で、カリキュラムに定めた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得することです。

2-2：内科専門医の使命
内科専門医の使命は、疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて市民の健康に積極的に貢献することです。そのためには、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供することが必要になります。

3. 内科専門研修の目標

3-1：専門研修後に求められる成果
内科専門医に求められる役割は多岐にわたります。
(1) 地域医療における内科診療医（かかりつけ医）
(2) 内科系救急医療の専門医
(3) 病院での総合内科専門医
(4) 総合内科的視点を持ったsubspecialty領域専門医
など状況に応じて適切な対応をすることが求められます。

3-2：経験すべき症例（「研修手帳（疾患群項目表）」参照）

専門医が研修・登録する症例は 15 領域に分類され、各領域の疾患はさらに複数の疾患群に分けられており、15 領域で合計 56 疾患群になります。経験した症例は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。最終的に 120 症例を登録する必要があります。外来症例は登録症例全体の 1 割まで含めることができます。また内科専門研修プログラム外での経験症例は 120 症例のうち最大 60 例まで登録可能となります。各年次の登録目標数は以下の通りです。

(1) 専門研修 1 年修了時：20 疾患群（60 症例）以上

(2) 専門研修 2 年修了時：45 疾患群（90 症例）以上

(3) 専門研修 3 年修了時：56 疾患群（120 症例）以上

各領域において経験が必要な疾患群の数とあわせて以下の表に示します。2024 年度から必要登録数が 160 例から 120 例に減少しました。

	症例数		疾患群数
領域名	1～6期生	7期生～	全専攻医
総合内科Ⅰ（一般）	指定なし	計10以上	1
総合内科Ⅱ（高齢者）			1
総合内科Ⅲ（腫瘍）			1
消化器		10以上	5以上
循環器		10以上	5以上
内分泌		3以上	2以上
代謝		10以上	3以上
腎臓		10以上	4以上
呼吸器		10以上	4以上
血液		3以上	2以上
神経		10以上	5以上
アレルギー		3以上	1以上
膠原病及び類縁疾患		3以上	1以上
感染症		8以上	2以上
救急		10以上	4
合計	160以上	120以上	56疾患群

病歴要約は、1 年時修了時に 10 例以上、2 年時修了時には 29 例すべて登録するようにお願いしています。登録された病歴要約は査読され、改訂を求められることもあります。初期研修中の症例も一定の条件をみたせば（必要症例数 120 例のうち 60 例まで、また、病歴要約 29 例のうち 14 症例までは）経験症例数に含めることができます。

3-3：習得すべき専門知識

経験症例やカンファレンス等を通じて、内科専門医として持つべき知識の習得目標を設定し、達成度を評価します。各領域における専門知識の内容については「研修カリキュラム（項目表）」を参照してください。

3-4：経験・習得すべき技能（診察・検査・診断・処置・手術など）

内科領域における「技能」とは、疾患の診断と治療に必要な医療面接、身体診察、検査所見解釈、および診断・治療方針決定をいいます。これらを

(1) 専門研修 1 年時：指導医とともに行うことができる

(2) 専門研修 2 年時：指導医の監督下で行うことができる

(3) 専門研修 3 年時：自立して行うことができる

ようになるのが目標です。各領域における具体的な技能の内容については「技術・技能評価手帳」を参照してください。

3-5：身につけるべき倫理性・社会性・学問的姿勢

内科専門医にふさわしい倫理性・社会性を育むとともに、学問的な姿勢を身につけることも内科専門研修の目標です。以下のような点が挙げられます。

(1) 患者とのコミュニケーション能力

(2) 患者中心の医療の実践

(3) 医の倫理・医療安全への配慮

(4) 医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）

(5) 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力

(6) 患者から学ぶ姿勢

(7) 科学的な根拠に基づいた診断・治療（EBM: evidence-based medicine）

(8) 自己研鑽と生涯学習をおこなう姿勢

(9) 学会への参加、症例報告、臨床研究などの学術活動

（学会または論文発表を 2 件以上おこなうことが研修修了に必要です）

3-6：地域医療の経験

プログラム参加施設の中には関西医科大学香里病院のように地域密着型の施設も含まれています。急性期病院とは地域における立場や役割の異なる複数の施設で内科専門医に求められる役割を経験していただきます。

4. 内科専門研修の方法

4-1：臨床現場での学習

症例を担当することにより、患者さんとのコミュニケーション能力を高め、病態や診断過程についての理解を深めます。また、他者に対して症例提示をおこなうことにより、プレゼンテーション能力を身につけます。症例は入院症例が主体になりますが、外来担当医として外来診療も経験していただきます。また、外来・当直において救急症例の経験もしていただきます

4-2：臨床現場を離れた学習

(1) 医療安全・感染防御・医療倫理に関する講習会、(2) CPC、(3) 各診療科における抄読会、(4) 研修施設群合同カンファレンス、(5) JMECC 講習会、(6) 内科系学術集会等で医療安全・感染防御・医療倫理に関する知識、疾患の病態・治療に関する最新のエビデンス、内科領域の救急疾患に対する対応を学びます。

4-3：自己学習

「研修カリキュラム（項目表)」に各領域において身につけるべき知識や技能と、到達目標が示されています。自身の経験がなくとも学習すべき内容については内科系学会のセミナー（DVD、WEB 配信）や日本内科学会のセルフトレーニング問題等を用いて学習します。

5. 内科専門研修の評価

(1) 指導医は専攻医が登録した研修内容を確認し、必要なフィードバックの後にシステム上で承認をします。
(2) 年に複数回、自己評価・指導医による評価、メディカルスタッフによる 360 度評価をおこないます。
(3) 施設の研修委員会は年に複数回、プログラム管理委員会は年 1 回以上、登録システム上で研修状況を確認し、必要に応じてプログラムの修正をします。
(4) 専門研修 2 年次までに提出された 29 症例の病歴について査読がおこなわれ、3 年次修了までにすべての病歴が受理可能となるようにします。

6. 修了判定のプロセス

担当指導医が日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）で以下の項目を確認します。
(1) 56 疾患群（120 症例）以上の症例が登録されていること
(2) 29 症例の病歴要約が登録され査読の結果受理されていること
(3) 2 回以上の学会発表または論文発表が登録されていること
(4) JMECC を受講していること
(5) プログラムで定める講習会を受講していること
(6) 360 度評価に基づき医師の適性に問題がないこと
上記を確認後にプログラム管理委員会で合議のうえ最終判定をおこないます。

7. 専攻医の就業環境

労働基準法を順守することを原則とし、各施設の就業規則に従います。プログラム管理委員会では各施設における労働環境・労働安全・勤務状況に関する報告がなされ、これらの事項について総括的な評価をおこないます。

8. 内科専門研修プログラムの評価

8-1：専攻医・指導医による評価
日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）においてプログラムの評価をおこない、集計結果を研修プログラムの改善に役立てます。

8-2：各施設の研修委員会、プログラム管理委員会、専門医機構による評価
日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）において専攻医の研修状況・指導医の指導状況をモニターし、プログラムが円滑に進められているか判断します。

8-3：専門医機構による実地調査
実地調査による評価はプログラム管理委員会に伝えられ、必要な場合は研修プログラムの改善を行います。

9. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修

9-1：休止・中断

疾病や妊娠・出産に伴う研修期間の休止については、プログラム修了要件を満たし、かつ、休職期間が6ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はありません。6ヶ月を超えて休職する場合は、研修期間の延長が必要になります。留学期間は原則として研修期間として認められません。

9-2：他の内科専門研修プログラムへの移動

やむを得ない事情により研修開始施設での研修続行が困難になった場合は、移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際、移動前と移動先の両プログラム管理委員会が継続的研修を相互に認証する必要があります。

9-3：他領域の専門研修プログラムからの移動

他領域から内科領域の専門研修プログラムに移行する場合や他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合には、過去の経験症例について当該専攻医が根拠となる記録を提示し、担当指導医およびプログラム統括責任者が内科専門研修の経験としてふさわしいと認めた場合に限り、当該症例の日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録が認められます。症例経験として適切か否かの最終判定は専門医機構内科領域研修委員会が行います。

10. 研修プログラムの管理運営体制

10-1：プログラム管理委員会（基幹施設）

基幹施設に研修プログラムおよびプログラムに属するすべての専攻医の研修を管理するプログラム管理委員会をおき、プログラム統括責任者を定めます。

10-2：研修委員会（基幹施設、連携施設）

基幹施設および連携施設にプログラム管理委員会の下部組織として各施設の研修委員会を設置します。

11. 関西医科大学内科専門研修プログラム施設群概要

基幹施設である関西医科大学附属病院と54の連携施設、合計55の病院により構成されています。関西医科大学内科には6講座があり、各講座の担当分野は以下の通りです。

(1) 第一内科：呼吸器（良性呼吸器疾患)、感染症、血液、アレルギー、膠原病
(2) 第二内科：循環器、腎臓、内分泌、代謝
(3) 第三内科：消化器肝臓
(4) 呼吸器腫瘍内科：呼吸器（肺癌を中心とした胸部腫瘍）
(5) 心療内科：総合内科
(6) 脳神経内科：神経

各施設と関連する診療科を以下に示します。関西医科大学附属3病院以外の連携施設では関連診療科担当分野のsubspecialty研修に重点をおいた研修をおこないます。

		病床数	関連する診療科					
	病院名		第一内科	第二内科	第三内科	呼腫内科	心療内科	脳神経内科
1	関西医科大学附属病院	797	○	○	○	○	○	○
2	関西医科大学総合医療センター	477	○	○	○	○		○
3	関西医科大学香里病院	199	○	○	○	○		○
4	伊賀市立上野総合市民病院	281			○			
5	大阪府済生会泉尾病院	440	○	○	○	○	○	○
6	大阪府済生会中津病院	712						○
7	大阪府済生会野江病院	400			○			○
8	大阪急性期・総合医療センター	865		○				
9	大阪警察病院	580		○	○			
10	大阪労災病院	678		○				
11	大阪医療センター	694		○				
12	大手前病院	401		○				
13	交野病院	208	○		○			
14	河内総合病院	350	○	○				
15	関西電力病院	400				○		
16	北野病院	699			○			○
17	京都桂病院	585		○			○	
18	国立循環器病研究センター	612		○				○
19	堺市立総合医療センター	487		○			○	
20	静岡市立静岡病院	506			○			
21	住友病院	499		○				
22	青樹会病院	78	○					
23	天理よろづ相談所病院	815						○
24	日本赤十字社和歌山医療センター	659					○	
25	兵庫県立西宮病院	400		○				
26	大和郡山病院	235			○			
27	りんくう総合医療センター	388		○				
28	近畿大学奈良病院	518	○	○				
29	香川大学医学部附属病院	613	○					
30	福島県立医科大学附属病院	778	○					
31	岩手医科大学附属病院	1000	○					
32	福井大学医学部附属病院	600	○					
33	松坂市民病院	328				○		
34	神戸市立西神戸医療センター	475			○	○		
35	神戸低侵襲がん医療センター	80				○		
36	兵庫県立尼崎総合医療センター	730				○		
37	宝塚市立病院	436				○		
38	道後温泉病院	224	○					
39	白庭病院	150			○			
40	大津赤十字病院	692			○			○
41	ツカザキ病院	241						○
42	大阪刀根山医療センター	410				○		
43	神戸市立医療センター中央市民病院	768			○			
44	神鋼記念病院	333			○			
45	高槻赤十字病院	439			○			
46	星ヶ丘医療センター	580			○			
47	川崎病院	278		○				
48	九州大学病院	1235					○	
49	JCHO大阪病院	565		○				
50	洛和会音羽病院	548				○		
51	西宮渡辺心臓脳・血管センター	112		○				
52	兵庫医科大学病院	963	○	○	○			
53	埼玉医科大学国際医療センター	576			○			
54	東邦大学医療センター佐倉病院	405			○			
55	国立病院機構名古屋医療センター	618				○		
56	医誠会国際総合病院	560						○
57	若草第一病院	230			○			
58	奈良県総合医療センター	540			○			
59	神戸赤十字病院	310					○	
60	奈良県立医科大学附属病院	875	○					
61	日本生命病院	350		○	○			
62	獨協医科大学病院	1153			○			

12. 専攻医の募集と採用方法

12-1：募集専攻医数

下記の(1)～(4)により、関西医科大学内科専門研修プログラムにおける募集可能な専攻医数の上限は 1 学年 16 人とします。

(1) 過去 5 年間に関西医科大学内科専門研修プログラムに応募した後期研修医は平均 16 名です。

(2) 関西医科大学内科系講座では各医局に割り当てられた定員に応じて、募集定員を調整することが可能です。また後期研修医については講座定員とは別に病院長枠での採用が可能で過去の実績もあります。

(3) 関西医科大学附属病院、関西医科大学総合医療センター、関西医科大学香里病院の剖検数合計は 2016 年度～2020 年度の 5 年間の平均で 16 体です。

(4) 過去にプログラム研修をした大部分の専攻医は各講座の専門領域を中心に研修しますが、希望があれば横断的に複数の講座にて研修をおこない、内科全体のスキルアップを図るとともに、JOSLER 登録するための症例を集めることも可能です。

(5) 関西医科大学附属病院（枚方）での入院症例数は以下の通りです。

消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
928	1028	28	172	177	501	252	200	10	56	3	168

疾患群充足度は 62/70 で、内分泌・アレルギー・感染症がやや少なめですが、外来診療患者を含めれば十分な症例数を経験することが可能であり、連携施設での研修もあわせて修了に必要な 56 疾患群 120 症例を問題なく経験できるものと考えます。

12-2：専攻医の募集と選考

原則として書類審査および面談をおこない、採否を決定して本人に文書で通知します。詳細については関西医科大学の website に掲示します。

12-3：専攻医の登録

関西医科大学内科専門研修プログラムを開始した専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）により、日本専門医機構に専攻医として登録します。

13. モデルプログラム・週間スケジュール

13-1：モデルプログラム（例）

3 年間のプログラムの例を示します。subspecialty 領域の専門研修については（3 年間で内科専門研修を修了することが必須要件ですが)、後期研修 3 年間のうち合計 2 年間相当まで subspecialty 研修として取り扱うことが認められています。

(1) モデル 1

<table>
<tr><th></th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td>1年目</td><td colspan="11" rowspan="2">関西医科大学附属病院（枚方）での研修</td></tr>
<tr><td>2年目</td></tr>
<tr><td>3年目</td><td colspan="11">連携施設での研修（subspecialty研修）</td></tr>
</table>

最初の 2 年間を関西医科大学附属病院（枚方）で研修し、3 年目に連携施設で研修をします。3 年目は主に subspecialty 研修をおこないます。

(2) モデル 2

<table>
<tr><th></th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td>1年目</td><td colspan="11">関西医科大学附属病院（枚方）での研修</td></tr>
<tr><td>2年目</td><td colspan="11">関西医科大学総合医療センター（滝井）／香里病院での研修</td></tr>
<tr><td>3年目</td><td colspan="11">連携施設での研修（subspecialty研修）</td></tr>
</table>

最初の 1 年間を関西医科大学附属病院（枚方)、2 年目を関西医科大学総合医療センター（滝井）もしくは関西医科大学香里病院で研修し、3 年目から他の連携施設で研修をおこないます。3 年目は subspecialty 研修が主体です。1 年目と 2 年目は入れ替わることもあり得ます。

(3) モデル 3

<table>
<tr><th></th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td>1年目</td><td colspan="11">関西医科大学附属病院（枚方）での研修</td></tr>
<tr><td>2年目</td><td colspan="11" rowspan="2">連携施設での研修（subspecialty研修（＋内科研修））</td></tr>
<tr><td>3年目</td></tr>
</table>

最初の 1 年間を関西医科大学附属病院（枚方）で研修し、2 年目以降は連携施設での研修をおこないます。連携施設では主に subspecialty 研修をおこないますが、経験した症例の内容に応じて自分の subspecialty 以外の内科領域の研修をおこなうこともあり得ます。

上記はあくまでもモデルケースで、実際には基幹施設と連携施設の組み合わせにはいろいろなパターンがありうるものと思います。各内科領域のローテーションは原則として 2〜3 ヶ月単位でおこなわれます。JMECC 講習会および年 2 回の医療安全と感染症対策の講習会の受講も義務づけられています。

13-2：週間スケジュール（例）
循環器内科の例を示します。

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜・日曜</th></tr>
<tr><td>午前</td><td>病棟業務</td><td>CCU日勤</td><td>病棟業務</td><td>CAG/PCI</td><td>病棟業務</td><td rowspan="4">日直・当直
講習会
学会など</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td>病棟業務</td><td>CCU日勤</td><td>総回診</td><td>CAG/PCI</td><td>専門外来</td></tr>
<tr><td>抄読会
研究発表会</td><td>CAG/PCI
カンファレンス</td><td>心不全
カンファレンス</td><td>CAG/PCI
カンファレンス</td><td>内科外科合同
カンファレンス</td></tr>
<tr><td colspan="5">当直など</td></tr>
</table>

14. プログラム管理委員会委員・研修委員会委員

・伊藤　　量基（内科学第一講座教授）
・長沼　　誠　（内科学第三講座教授、プログラム統括責任者、研修委員会委員長））
・倉田　　宝保（呼吸器腫瘍内科学講座教授）
・蓮尾　　英明（心療内科学講座教授）
・藥師寺　祐介（神経内科学講座教授）

15. 関西医科大学内科専門研修プログラム施設群紹介

(1) 関西医科大学附属病院（枚方）

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（職員メンタルヘルス相談）があります。 ·ハラスメント委員会が整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·常勤の指導医は 51 名在籍しています。 ·連携施設として研修委員会を設置し，基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会を設置し，卒後臨床研修センターと協働してプログラムに沿った研修ができるように調整します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策の講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます（なお，2020 年度は COVID-19 のため講習会のかわりに DVD 視聴，e ラーニングを行っていただきました）。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績内科系 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·70 疾患群のうち 62 疾患群程度について研修できます。 ·専門研修に必要な剖検（2024 年度 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 8 回）しています。
指導責任者	長沼　誠（内科学第三講座教授） 【内科専攻医へのメッセージ】 関西医科大学附属病院は北河内二次医療圏において中心的な役割を持つ急性期病院です。幅広い症例を経験することにより、内科全般の知識を深めることができます。また、連携施設では急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応し地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。特定の subspecialty を中心とする研修をおこなうことも可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医 62 名 日本内科学会総合内科専門医 44 名 日本消化器病学会消化器専門医 16 名

	日本肝臓病学会専門医 10 名 日本循環器学会循環器専門医 12 名 日本腎臓学会腎臓専門医 5 名 日本内分泌学会内分泌専門医 4 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 日本血液学会血液専門医 8 名 日本神経学会神経内科専門医 10 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 3 名
外来・入院患者数	外来患者延数　235,962 名/年　入院患者延数　90,420 名/年
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，12 領域、62 疾患群程度の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定研修施設 日本アレルギー学会専門医研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本大腸肛門病学会指導施設 日本炎症性腸疾患学会指導施設 日本食道学会全国登録認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本感染症学会研修施設 日本気管食道学会専門医研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院

	日本内分泌学会認定教育病院 日本甲状腺学会認定施設 日本心療内科学会認定専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設

(2) 関西医科大学総合医療センター（滝井）

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員メンタルヘルス相談）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地近隣に附設保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・常勤の指導医は 25 名在籍しています。 ・連携施設として研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理（2015 年度実績 8 回）・医療安全（2014 年度実績 26 回）・感染対策講習会（2014 年度実績 25 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2014 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 55 疾患群程度について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 11 回）しています。
指導責任者	山本　克浩（循環器腎内分泌代謝内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 関西医科大学総合医療センターは基幹施設である関西医科大学病院とともに北河内二次医療圏において中心的な役割を持つ急性期病院です。基幹施設との緊密な連携のもと、幅広い症例を経験することにより、内科全般の知識を深めることができます。また、特定の subspecialty を中心に研修をおこなうことも可能です。
指導医数 （常勤医）	日本認定内科医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日本肝臓病学会専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 7,345 名（1 ヶ月平均）入院患者 3,771 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 10 領域、55 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本アレルギー学会教育施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修指定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本心血管インターベーション治療学会

(3) 関西医科大学香里病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員メンタルヘルス相談）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・常勤の指導医は 10 名在籍しています。 ・連携施設として研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理（2016 年度実績 3 回）・医療安全（2016 年度実績 23 回）・感染対策講習会（2016 年度実績 8 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2018 年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 35 疾患群程度について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・倫理委員会を定期的に開催（2016 年度実績 5 回）しています。
指導責任者	高山　康夫（内科診療部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　関西医科大学香里病院は、関西医科大学附属病院および関西医科大学総合医療センターと連携し、地域に開かれた大学病院としての役割を果たしています。内科は臓器別ではなく、全体としてひとつの部門になっており、消化器・循環器・内分泌代謝・腎臓・呼吸器疾患を中心にひろく一般的な内科診療の研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 1 名 日本肝臓学会専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名
外来･入院患者数	外来患者 4,818 名（1 ヶ月平均）入院患者 2,404 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域、35 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育病院 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設　など

(4) 伊賀市立上野総合市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 2 名在籍しています。 ・伊賀市立上野総合市民病院研修管理委員会（委員長：院長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す消化器分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・消化器分野の９疾患群のうち８疾患群について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、パソコン室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
指導責任者	八尾　隆治（消化器・肝臓内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 伊賀市立上野総合市民病院は、昨年上部内視鏡 2,681 件、下部内視鏡 1,362 件、ERCP59 件と豊富な症例があり、常勤医３名、非常勤１名体制で研修される先生に十分な症例を提示でき手技を学ぶのに最適と考えます。また肝胆膵の分野においても経皮的に肝臓や胆嚢のドレナージも積極的に行っています。内視鏡治療を中心に幅広い消化器疾患を学ぶことができる病院です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医１名、 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本肝臓学会専門医１名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名
外来･入院患者数	外来患者 5,755 名（1 ヶ月平均）入院患者 5,798 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある消化器分野の９疾患群のうち８疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本がん治療認定医療機構認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設　など

(5) 大阪府済生会泉尾病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度研修指定病院（基幹型・協力型）です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·大阪府済生会泉尾病院専攻医として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ·ハラスメント防止規程が整備され、ハラスメント相談員が院内に設置されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·近隣に付属の保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医（常勤）は 6 名在籍しています。 ·研修委員会は、基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ·研修委員会と臨床研修部で専攻医の研修状況を管理し、プログラムに沿った研修ができるように調整します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（CAG 研究会、EPS フォーラム、アブレーション研究会、西大阪心臓会議、新大阪腎カンファレンス、NPPV カンファレンス、SALT CLUB、大正泉尾呼吸ケア研究会、大阪西部泉尾喘息研究会、肝疾患懇話会、症例検討会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修部が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·70 疾患群のうち 37 疾患群以上について研修できます。 ·専門研修に必要な剖検を毎年 3-4 体程度行っています（2025 年度：3 体）
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ·倫理委員会を設置し、随時開催しています。 ·治験管理部署を設置し、受託研究審査会を随時開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	江口　典孝 【内科専攻医へのメッセージ】

	大阪府済生会泉尾病院は、大阪市西部医療圏に属しており、超急性期から回復期・慢性期までをカバーしています。取り分け、所在地である大正区においては地域基幹病院として、コモンディジーズをはじめ様々な疾患と多様な病期・病態の患者を診ることができ、内科全般において総合的な診療能力を養うことができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医：6 名 日本透析学会指導医：1 名 日本内科学会総合内科専門医：8 名 日本消化器病学会消化器病専門医：5 名 日本消化器内視鏡会専門医：5 名 日本循環器学会循環器専門医：7 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医：2 名 日本腎臓病学会腎臓病専門医：1 名 日本アレルギー学会専門医：2 名 日本肝臓学会肝臓専門医：2 名 日本心血管インターベンション治療学会心血管カテーテル治療専門医：1 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医：2 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医：1 名 日本不整脈心電学会不整脈専門医：2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医：3 名
外来・入院患者数	外来延患者：11,542 名（1 ヶ月平均）　2025 年度 新入院患者：　493 名（1 ヶ月平均）　2025 年度
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器管学会認定胃腸科指導施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本高血圧学会認定高血圧研修施設 日本腎臓学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設　など

(6) 大阪府済生会中津病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・済生会中津病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 29 名在籍しています。 ・各内科系診療科の代表・臨床教育部部長などで構成される研修委員会をおき、基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・各診療科が参加している地域参加型のカンファレンスに専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2013 年度 6 体、2014 年度実績 11 体、2015 年度 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・治験審査委員会と臨床研究倫理審査委員会を設置し、各々定期的に審査会を開催（各々2015 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 7 演題）をしています。
指導責任者	長谷川　吉則（内科統括部長、呼吸器内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪府済生会中津病院は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどからなる済生会中津医療福祉センターの中核をなす 712 床の大型総合病院であり、平成 28 年に創立 100 周年を迎えました。 当院は大阪市医療圏の北部地域の中心的な急性期病院として、地域の病診・病病連携の中核をなし、救急診療に力を注ぐ一方、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟も併せ持っており、急性期から慢性期まで幅広い疾患の診療経験ができます。

	主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 29 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本糖尿病学会専門医 9 名 日本内分泌学会内分泌専門医 5 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名 日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）1 名、 日本感染症学会感染症専門医 1 名､日本老年医学会老年病専門医 2 名
外来･入院患者数	外来患者 14,118 名（1 ヶ月平均）入院患者 677 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度内科専門医教育病院 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本心血管カテーテル治療学会 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本老年医学会認定施設 日本認知症学会認定施設　など

(7) 大阪府済生会野江病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士 2 名在籍）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、宿直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 22 名在籍しています。 ・各内科系診療科の代表・臨床教育部部長などで構成される研修委員会をおき、基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（大阪市東部地域医療連携学術講演会、城東消化器診療勉強会、淀川ＧＩカンファレンス、大阪東部消化器フォーラム、肝・消化器代謝栄養研究会、関西消化器・肝疾患懇話会、肝疾患連携懇話会、大阪呼吸器カンファレンス、DM net ONE、大阪糖尿病と足病変管理について考える会、のえ脳卒中セミナー、なにわ神経内科懇話会、大阪市東部地区循環器フォーラム、野江循環器疾患よろず相談セミナー、N-JAT フォーラム、ECO（Eastern COnference of cardiovascular disease）、大阪市東部病院勤務医懇話会、等：2015 年度実績 25 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます（2018 年 JMECC 開催予定）。 ・日本専門医機構の実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年実績 5 体、2014 年度実績 3 体、2013 年度 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 9 回）しています。 ・治験管理委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 3 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度）をしています。

指導責任者	羽生　泰樹（消化器内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪府済生会野江病院は大阪市東部医療圏の中心的な急性期病院であり、当院および連携施設での研修により、内科専門医として必要十分な症例の経験が可能です。内科学会専門医受験に必要な研修内容を確保したうえで、subspecialty 等、将来の進路や個人の希望を考慮したフレキシブルなプログラムとなっています。内科系 subspecialist、内科系救急医療の専門医、病院における generalist、地域のかかりつけ医等、様々な進路が考えられますが、それらの進路へのスムーズな移行に配慮するとともに、いずれにも求められる患者本位の全人的医療を実践する基礎となる研修を意図しています。多くの専攻医の皆さんと一緒に、楽しく学べることを楽しみにしています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 22 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器病専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,444 名（1 ヶ月平均）　入院患者 399 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

(8) 大阪急性期・総合医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・非常勤医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する施設（大阪府こころの健康総合センター）が、病院と公園をはさんで隣にあります。 ・ハランスメント対策講習会が院内で毎年開催されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院と同敷地内に保育所があり、病児保育も含め利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2)専門研修プログラムの環境	・JMECC 開催要件であるディレクターが在籍しており、毎年数回講習会を開ける体制にあります。 ・指導医は 2018 年 4 月の時点で 30 名在籍しています。 ・専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催（2014 年度実績　医療倫理 3 回、医療安全 3 回、感染対策 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2013, 2014, 2015 年度実績： 24 回, 21 回, 26 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病診連携カンファレンス、2015 年度実績 5 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 6 演題）をしています。
指導責任者	大阪急性期・総合医療センター内科専門研修プログラム責任者 林　晃正
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 30 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名
外来・入院 患者数	2015 年度実績 : 外来患者　1,249 名（平均／日）、入院患者 20,211 名／年

経験できる疾患群	J-OSLER にある内科 13 領域、70 疾患群のほとんどすべての症例を定常的に経験することができます。当センターは高度救命救急センター、三次救急及び二次救急の指定医療機関であることを踏まえ、南大阪地域の救命救急の中核的医療機関として、24 時間体制で患者さんを受け入れています。従って、救命救急センターと連携して救急領域の不足疾患を経験することが可能です。また、障害者医療・リハビリテーションセンターを有して、医療と福祉の連携といった観点に立った活動も行っているため、急性期から慢性期まで幅広い疾患群を経験できます。 2016 年 4 月 1 日より血液・腫瘍内科がオープンしました。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、大阪府南部医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本不整脈学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本血液学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設

(9) 大阪警察病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師（特定任期付職員）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対処する部署（総務課厚生係）があります ・ハラスメント窓口（人事課）が整備されています。 ・女性専攻医のための休憩コーナー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内に病児保育室があり、利用可能です。 ・託児手当があり、利用可能です（子が 3 歳に達する迄）。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 24 名在籍しています（2016 年 12 月現在）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)), 副統括責任者(ともに総合内科専門医かつ指導医);専門医研修プログラム準備委員会から 2017年度中に移行予定)にて, 基幹施設, 連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と専門医研修センター(仮称)(2017 年度予定)を設置します ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催(2014 年度実績 18 回, 2015 年度実績 23 回, 2016 年度実績(2017 年 1 月末時点)24 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2014 年度実績 19 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をあたえます。 ・地域参加型のカンファレンス（天王寺区医師会・病院合同講演会年 1 回、臨床医講習会年 4 回、各内科診療科地域連携講演会年 5 回前後、夕陽丘緩和ケア連絡会年 3 - 4 回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2017 年度:連携施設にて開催予定)を義務付け, そのための時間的余裕を与えます(当院でも開催準備中)。 ・日本専門医機構による施設実地調査に専門医研修センター(仮称)(2017 年度設置予定)が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 21 体、2015 年度実績 19 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、OA ルームなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的（2014 年度実績 12 回）に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 14 回）をしています。

	・学会等への参加は出張扱いとし、出張費を支給しています（当院規定による）。
指導責任者	尾下　正秀（副院長、消化器内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪警察病院は、大阪府二次医療圏の中心的な急性期病院であり、二次医療圏・近隣医療圏にある連携施設と内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 内科専門医外来，ER・総合診療センターにおける外来・当直研修を通じて，初期診療に十分対応しえる医師をめざした研修を，また，高齢者医療，慢性期疾患，癌疾患などの継続的な診療など，多数の症例を経験することができます．一方，入院症例においては，入院から退院（初診・入院～退院・通院）経時的に，診断・治療の流れを経験することで，主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざしていただけます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 24 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名、 日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 8 名　　ほか
外来･入院患者数	外来患者 39,077 名（1 ヶ月平均）入院患者 1,330 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめてまれな疾患をのぞいて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門医制度認定教育病院 日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓学会認定医制度認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会専門医認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定準教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設　など

(10) 大阪労災病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・独立行政法人労働者健康安全機構の非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地から徒歩 1 分のところに保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 14 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長・内科部長）、プログラム管理者（副院長・循環器内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2016 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2016 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：堺循環器懇話会、南大阪心疾患治療フォーラム、南大阪不整脈研究会、堺腎臓ミーティング、南大阪腎疾患談話会、阪和透析合併症講演会、南大阪消化器病懇話会など；2016 年度実績 42 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2018 年度開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 12 体、2015 年度実績 14 体）を行っています。

認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2016 年度実績 5 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2016 年度実績 11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2016 年度実績 8 演題）をしています。
指導責任者	山内　淳 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪労災病院は、大阪府南大阪医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名、日本消化器病学会消化器指導医 1 名、日本内分泌学会指導医 1 名、日本人間ドック学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 2 名、日本腎臓学会指導医 2 名、日本老年医学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 ~~2~~1 名、日本超音波医学会指導医 3 名、日本高血圧学会指導医 3 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本透析医学会指導医 2 名、日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 33,006 名（1 ヶ月平均）入院患者 16,886 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本精神神経学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設

(11) 大阪医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構大阪医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対しては管理課長が適切に対処します。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病事後保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修 プログラム の環境	・指導医は 25 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修センターを設置します。 ・医療倫理は年 3 回開催される臨床研究セミナー内で講義され、専攻医は受講が義務づけされます。医療安全セミナーを年 14 回、感染対策セミナーを年 12 回開催し、専攻医に受講を義務づけます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・CPC を毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（法円坂地域医療セミナー、オンコロジーセミナー、緩和ケアセミナー）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 69 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（年平均 10 体以上）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会（適宜開催）と受託研究第 2 審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は臨床研究推進室が担当し、受託研究第 1 委員会（月 1 回）で審査しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。

指導責任者	三田英治 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪医療センターは、大阪府 2 次医療圏である大阪市東部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 25 名　日本内科学会認定医 52 名 日本内科学会総合内科専門医 14 名　日本循環器学会専門医 5 名 日本消化器病学会専門医 8 名　日本肝臓学会専門医 9 名 日本呼吸器学会専門医 5 名　日本腎臓病学会専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 3 名　日本血液学会専門医 4 名 日本神経学会専門医 2 名　日本アレルギー学会専門医 1 名 日本リウマチ学会専門医 1 名　日本感染症学会専門医 2 名 日本救急医学会専門医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 年間 22,801 名（1 ヶ月平均 1,900 人） 入院患者 年間 15,304 名（1 ヶ月平均 1,275 人）
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　日本神経学会準教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設　日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　日本胆道学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設　日本呼吸器内視鏡学会診療施設 日本腎臓病学会研修施設　日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設　日本血液学会血液研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設　日本脳卒中学会研修教育病院 日本感染症学会研修施設　日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設

(12) 大手前病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、当直室が整備されています。 ・保育所利用制度があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・常勤の指導医は 12 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（大手前病院病診連携症例検討会：2015 年度実績 6 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、神経、循環器、代謝・内分泌、呼吸器および血液、腎臓、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・倫理審査委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・治験事務局を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 28 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。その他を含め内科系の学会で 2015 年度に 11 演題を発表しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	三井　秀紀 【内科専攻医へのメッセージ】 大手前病院は、大阪市東部医療圏の中心的な急性期病院の 1 つで、大阪府指定の地域医療支援病院でもあり、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．内科系の多くの subspecicalty を持った病院であり、各分野の専門医がおり多彩な疾患を経験できます。

	大阪府がん診療拠点病院であり、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、放射線治療、内視鏡検査・治療から緩和ケア治療までを経験できます。 救急病院で二次救急の救急搬送を年間約 3700 件受け入れており、救急の研修も充分できます. 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　12 名、日本内科学会総合内科専門医　9 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本内分泌学会専門医 2 名、日本神経学会専門医 1 名 日本造血細胞移植学会専門医 2 名　ほか
外来･入院患者数	外来患者 30,988 名（1 ヶ月平均）入院患者 8,417 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	多くの内科領域において内科専門医に必要な技術･技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	･技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます ･急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定内科専門医教育病院 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会専門医制度研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本大腸肛門病学会関連施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本脳卒中学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会専門医制度準教育施設 日本感染症学会感染症専門医制度認定研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設　など

(13) 交野病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 3 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります 。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催します。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催します。
指導責任者	鈴木　正彦（内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 社会医療法人信愛会交野病院は、大阪府北河内医療圏の中心的な急性期病院であり、北河内医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 7,800 名（1 ヶ月平均）　入院患者 220 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、60 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	該当なし

(14) 河内総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地隣に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・常勤の指導医は 5 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全講習会（2015 年度実績 2 回）・感染対策講習会（2015 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績地元医師会合同勉強会 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器内科、呼吸器内科および循環器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。専門研修に必要な剖検を行っています(2015 年度実績 2 体)。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、不定期で開催しています。 ・治験管理室を設置し、不定期で受託研究審査会を開催（2015 年度実績 1 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）をしています。 ・専攻医が国内外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も不定期で行われています。
指導責任者	林　英宰（副院長、心臓血管センター長） 【内科専攻医へのメッセージ】 東大阪地区における中心的な急性期病院として、救急患者の受け入れを精力的に続けています。特に急性心筋梗塞や急性心不全などの循環器救急受け入れ体制が充実しています。総合内科や消化器内科に経験豊富な指導医が複数在籍しており、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く研修を行うことができます。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　6 名、日本内科学会総合内科専門医　3 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本アレルギー学会専門医 1 名、日本超音波学会専門医 3 名、 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、ほか
外来･入院患者数	外来患者 12,000 名（1 ヶ月平均）入院患者 3,500 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、循環器内科、総合内科、消化器内科、呼吸器内科系の多数の入院・外来患者において幅広い内科治療を経験できます。
経験できる技術・技能	地域の急性期病院の拠点として、心筋梗塞、狭心症、急性心不全などの循環器救急患者や肺炎、腎不全、胃潰瘍、糖尿病などの代表的な内科疾患を数多く経験できます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 など

(15) 関西電力病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·関西電力病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（関西電力株式会社内に設置）があります. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医は 24 名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修部を設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（基幹施設 : 西部大阪肝胆膵疾患地域連携会・市民公開講座，市民講座　本当に大切な肝臓・胆道・膵臓，関西電力病院レントゲン読影会，関西電力病院糖尿病フォーラム，Kansai Diabetes Network Seminar，北大阪生活習慣病病診連携をすすめる会，地域の糖尿病診療を考える会，KDF 研究会，糖尿病フォーラム，中之島循環器フォーラム）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修部が対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうち 62 疾患群について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2020~2023 年度 28 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，インターネット環境などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.

指導責任者	加地　修一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 関西電力病院は400床を有する全国的にも珍しい企業立病院ですが，関西電力関係者は家族も含めて全外来患者数の約 3%にすぎず、地域に開かれれた地域中核病院です。 地域医療に貢献するべく、近年は救急医療にも注力しています。病院は高層で堂島川に面し，さらに高いビル群に囲まれた都会的な環境にある一方，周辺は古い下町の面影も残しています. 内科には循環器内科，血液内科，消化器内科，糖尿病・内分泌・代謝内科，腎臓内科，呼吸器内科，脳神経内科，腫瘍内科，リウマチ・膠原病内科の９専門科および緩和医療科があり，充実した指導医スタッフと共に最新設備を用いた研修を受けることができます．中規模病院であるため，診療科間の垣根が低くコンサルトが容易にできる良い伝統があります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 24 名，日本内科学会総合内科専門医 21 名，日本循環器学会専門医 9 名，日本消化器病学会専門医 8 名，日本消化器内視鏡学会専門医 8 名，日本肝臓学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 8 名，日本病態栄養学会専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本血液学会専門医 3 名，日本腎臓学会専門医 3 名，日本透析医学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 3 名，日本呼吸器学会専門医 1 名，日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名，日本神経学会専門医 5 名ほか日本内科学会指導医 24 名，日本内科学会総合内科専門医 21 名，日本循環器学会専門医 9 名，日本消化器病学会専門医 8 名，日本消化器内視鏡学会専門医 8 名，日本肝臓学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 8 名，日本病態栄養学会専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本血液学会専門医 3 名， 日本腎臓学会専門医 3 名，日本透析医学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 3 名，日本呼吸器学会専門医 1 名，日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名，日本神経学会専門医 5 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 805 名（1 日平均） 入院患者 310 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本栄養療法推進協議会ＮＳＴ稼動施設認定 日本肝臓学会専門医施設認定 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本気管食道科学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本血液学会血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本認知症学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床神経生理学会認定教育施設（脳波分野、筋電図・神経伝導分野） 日本透析学会認定施設　など

(16) 北野病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報が検索できるデータベース・サービス（UpToDate、Cochrane Library、Clinical key、Medical online、科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)、CiNii（NII 学術情報ナビゲータ）他、多数）が院内のどの端末からも利用できます。 ・公益財団法人田附興風会　医学研究所北野病院の常勤医師としての労務環境が保証されています。 ・院内には職員食堂があり、宿日直時は食事補助があります。（昼食・夜食：弁当支給、朝食：院内のコーヒーショップの食券を配布） ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・休憩室、更衣室、当直室を整備しています。 ・院内保育所があり、病児保育も利用可能です。院内保育所利用者に限り自動車通勤が可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医は１３名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（主任部長）（ともに指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医師卒後教育センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全講習会・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医師卒後教育センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・医の倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催していま

	す。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 4 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	北野　俊行 【内科専攻医へのメッセージ】 　北野病院は連携施設と協同して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。
指導医数 （常勤医）	内科指導医１３名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、日本消化器病学会消化器病専門医４名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医４名、日本循環器学会循環器専門医７名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医４名、日本透析医学会専門医４名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医３名、日本感染症学会専門医１名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医３名など
外来・入院患者数	外来：1,641.8 名（全科 1 日平均：2025 年度実績） 入院：200,616 名（全科 2025 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会専門医制度研修施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

(17) 京都桂病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・嘱託常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ハラスメント相談及び苦情対応窓口あり。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医は 28 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2014 年度実績 17 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・西京医師会と共同し、地域参加型のカンファレンスを定期的に多数開催しています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています（2014 年度実績 12 体(内科系 12 体)、2013 年度 20 体(内科系 17 体)。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・臨床倫理委員会を設置し、定期的に開催しています（2014 年度実績 4 回）。 ・治験委員会、臨床研究・倫理委員会が別にあり、各毎月 1 会開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	西村　尚志（呼吸器内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 京都・乙訓医療圏南部の急性期病院で、地域がん診療拠点病院でかつ地域医療支援病院です。地域の医療施設と連携しつつ責任感を持って地域の医療に貢献しています。同時に、初期および後期臨床研修病院として、医師のみならず多くの医療職の教育研修を行ってきました。そのような環境の中で、内科という医療の中でも中核を担う領域で、全人的・患者中心かつ標準的・先進的内科的医療の実践を志す内科専門医志望者を、連携病院とともに丁寧に育てていきたいと考えています。
指導医数 （常勤医）	内科指導医 28 名 日本内科学会指導医 3 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、 日本循環器学会循環器専門医 5 名

	日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、 ほか
外来･入院患者数	外来患者 21,650 名（1 ヶ月平均）　入院患者 455 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 10 領域、55 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 骨髄移植推進財団非血縁者間骨髄採取・移植施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 など

(18) 国立循環器病研究センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室担当）があります。 ・ハラスメント委員会が総務部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・常勤の指導医は 43 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2018 年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2014 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2014 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科 13 領域のうち 3 領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 85 演題）をしています。
指導責任者	野口　輝夫 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 43 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会消化器専門医 0 名、日本肝臓病学会専門医 0 名 日本循環器学会循環器専門医 24 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本内分泌学会専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 0 名、 日本神経学会神経内科専門医 14 名、

外来・入院患者数	外来患者名 8,710（1 ヶ月平均）　入院患者名 7,501（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて研修手帳（疾患群項目表）にある 3 領域、9 疾患群の 9 症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設 など

(19) 堺市立総合医療センター

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・堺市立総合医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する職員支援センターがあります. ・ハラスメント担当としては，職員相談窓口としてハラスメント相談員が，「地方独立行政法人堺市立病院機構就業規則」に基づき設置されており，職員支援センターが同規則に基づいて所用の措置を講じなければならないと定められています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・隣接する職員寮の敷地内に院内保育所・病児，病後児保育所がり，利用可能です.
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は28名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会において，基幹施設，連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育研究センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会などを定期的に開催（2017年度実績36回）し，専攻医に受講を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2018年度実績9症例）し，専攻医に受講を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2018年度自施設内開催実績1回）を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育研究センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修では，指導医の連携施設への訪問に加えて電話や週1回の堺市立総合医療センターでの面談･カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2016年度実績12体、2017年度実績17体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，自習室，ソフトウエアなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2017年度実績1回）しています。 ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2017年度実績10回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会には，年間で計3演題以上の学会発表（2017年度実績21演題）をしています。

指導責任者	松浦　基夫 【内科専攻医へのメッセージ】 　堺市立総合医療センターは，大阪府堺市二次医療圏の中心的な急性期病院であり，厚生労働省指定の地域がん診療連携拠点病院であり，大阪府の地域医療支援病院承認施設でもあります。また，内科系救急受入数は年間13,000件前後の実績があり，災害拠点病院・感染症指定医療機関（第一種，第二種）・エイズ診療拠点病院ならびに大阪府肝炎専門医療機関の役割も担い，480床（感染病床７床）をもっています。このプログラムでは，当院の培ってきた総合的な内科診療をもとに臨床研修を行っていきます。近隣医療圏にある大阪市北部の連携施設（淀川キリスト教病院）大学病院では大阪医科大学附属部病院、当医療圏内の特別連携施設（阪和第二泉北病院、南堺病院、ベルピアノ病院、阪南中央病院）とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として，主に入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを支援します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医28名，日本内科学会総合内科専門医17名 日本消化器病学会消化器専門医5名，日本肝臓病学会専門医3名 日本循環器学会循環器専門医2名，日本糖尿病学会専門医2名， 日本腎臓病学会専門医2名，日本老年医学会専門医2名， 日本内分泌学会専門医1名，日本呼吸器学会呼吸器専門医6名， 日本血液学会血液専門医5名，日本神経学会神経内科専門医1名， 日本アレルギー学会専門医（内科）1名，日本リウマチ学会専門医2名， 日本救急医学会救急科専門医2名，ほか
外来・入院 患者数	外来患者18,199名（平均延数／月）　新入院患者1,215名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設　日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設　日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設　日本リウマチ学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連定施設　日本神経学会認定准教育施設 日本アレルギー学会認定専門医教育施設　日本救急医学会認定指導医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設　日本高血圧学会専門医認定施設 日本肝臓学会認定施設　日本病理学会研修認定施設Ｂ 日本臨床細胞認定教育研修施設　日本集中治療医学会専門医研修施設 日本消化管学会暫定処置による胃腸科指導施設 日本ＩＶＲ（インターベンショナルラジオロジー）学会専門医修練施設　など

(20) 静岡市立静岡病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人静岡市立静岡病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士が担当する「こころの保健室」）があります。 ・ハラスメント委員会が静岡市立静岡病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・常勤の指導医は 19 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理については臨床研究倫理セミナーとして倫理指針の資料を配布して報告書の提出の義務付けを行ないます。 ・感染対策については講習会を定期的に開催（2015 年度実績 3 回＋再講演、ビデオ上映会），また、医療安全については研修会を定期的に開催（2015 年度実績 6 回＋再講演、ビデオ上映会）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2016 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（静岡病診がんカンファレンス、静岡病院病診連携総会講演会、清水循環器カンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち神経を除く 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち神経を除く 61 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 17 体，2014 年度実績 21 体，2013 年度 17 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 6 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 10 回）しています。 ・本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	小野寺　知哉（副院長、ハートセンター所長） 【内科専攻医へのメッセージ】 静岡市立静岡病院は、静岡県静岡医療圏の中心的な急性期病院であり、静岡医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。

	主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 0 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本リウマチ学会専門医 0 名、日本感染症学会専門医 0 名、 日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来･入院患者数	外来患者 23,577 名（1 ヶ月平均）入院患者 1,080 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち 12 領域、55 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会専門医認定教育施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 など

(21) 住友病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境があります。各個人にそれぞれ1台のPC端末が貸与され電子カルテにアクセス可能です。 ・一般財団法人住友病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室、女子寮が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・常勤の指導医は 26 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（中之島地域医療セミナーなど年間60～70回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のほぼすべての疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 22 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、医学写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・専攻医が学会に参加・発表する機会が多くあり、和文、英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。在籍中に筆頭著者として英文論文を複数発表した専攻医も過去に何人もいます。
指導責任者	宇高　不可思（内科系副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 一般財団法人住友病院は大阪市医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設と併せて内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医26名、日本内科学会総合内科専門医17名 日本消化器病学会消化器専門医8名、 日本循環器学会循環器専門医4名、 日本糖尿病学会専門医5名、日本内分泌学会専門医2名、 日本腎臓病学会専門医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、 日本血液学会血液専門医3名、日本神経学会神経内科専門医5名、 日本アレルギー学会専門医2名、日本リウマチ学会専門医1名、 日本感染症学会専門医１名、日本救急医学会救急科専門医１名、 ほか
外来･入院患者数	外来患者 11,314 名（1 ケ月平均）、入院患者 408 名（1 ケ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会認定医研修施設 日本老年医学会専門医制度認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧研修施設 日本超音波医学界認定超音波専門医制度研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本認知症学会認定専門医教育施設　など

(22) 青樹会病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・常勤の指導医は 2 名在籍しています。 ・連携施設として研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（寝屋川市感染症ネットワーク、感染防止対策地域連携カンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 5 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・専攻分野での症例発表（院内にて）を年に 1 回行う事を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
指導責任者	全　勝浩（院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　青樹会病院は寝屋川市の地域に根ざした医療を行っています。訪問診療や地域の診療所、病院との連携に貢献できるように、また、入院医療については、主治医制を採用して退院の決定や退院後の在宅における家庭環境の調整といった全人的医療を実践できる専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 2,500 名（1 ヶ月平均）　入院患者 120 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）に掲載されている 13 領域の症例のうち、特に当院の専門である、血液疾患と消化器疾患については、幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	該当なし

(25) 天理よろづ相談所病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・内科専攻医もしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・常勤の指導医は 32 名在籍しています。 ・連携施設として研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全（2015 年度実績 11 回）・感染対策講習会（2015 年度実績 12 回）を定期的に開催します。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2015 年度実績 14 演題）をしています。
指導責任者	田口　善夫（呼吸器内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 来る高齢化社会では患者の 1 つの病気をただ治すといった治療モデルでは難しく、多疾患の同時並行的な治療を求められる。またキュアからケアへの移行、患者との死生観の共有が必要と考えられる。天理よろづ相談所病院は昭和 51 年よりレジデント制度を開始し、昭和 53 年よりシニアレジデントの内科ローテイトコースを行っている。また奈良県東和医療圏の急性期病院として役割を担っている。これらの経験を活かし、専門的な臓器別診療だけではなく、内科全般や更に医療周辺の社会機構にわたる幅広い知識や経験を基礎にバランスよく患者を診療する能力をもった内科医を養成したいと考えている。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 32 名，日本内科学会総合内科専門医 28 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本内分泌学会専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名，日本糖尿病学会専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名，日本血液学会血液専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医 1 名，日本感染症学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 1,800 名（1 日平均）　入院患者 570 名（1 日平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本感染症学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設（胸部） ステントグラフト実施施設（腹部） 日本内分泌学会内分泌学会認定教育施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌･甲状腺外科学会専門医制度認定施設

(26) 日本赤十字社和歌山医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·日本赤十字社和歌山医療センター常勤嘱託医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります. ·ハラスメントに適切に対処する，苦情・相談体制が整っています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·隣接地に院内保育所，センター内に病児保育があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 24 名在籍しています.（2026 年 4 月現在). ·内科専門医研修プログラム管理委員会が設置されており，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門医研修委員会を設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 2 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·その他、事務対応，施設実地調査は業務部研修課が対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 8 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます. ·専門研修に必要な剖検（2022 年度 6 体、2023 年度 1 体、2024 年度 4 体、2025 年度 6 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室（24 時間利用可），統計解析ソフト JMP などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 3 演題）をしています.
指導責任者	静田　聡　（循環器内科主任部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　日本赤十字社和歌山医療センターは，和歌山県和歌山医療圏の中心的な急性期病院であり，三次医療圏・近隣医療圏にある連携・特別連

	携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数等 （常勤医）	日本内科学会指導医 24 名 日本内科学会総合内科専門医 37 名 日本消化器病学会専門医 8 名 日本肝臓学会肝臓専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本内分泌学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本腎臓学会専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名 日本血液学会専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 7 名 日本感染症学会専門医 3 名 日本救急医学会救急科専門医 6 名 日本老年病学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者 161,475 名 内科の新入院患者　 8,986 名（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度准教育関連施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設

	非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 非血縁者間末梢血幹細胞移植・採取認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本肥満症学会認定肥満症専門病院 日本心身医学会研修施設　　ほか

(28) 兵庫県立西宮病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·地方公務員法第 22 条第 2 項の規定に基づく臨時的任用職員として正規職員に準じた労務環境が保障されています．また公舎等の利用が可能です. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）が兵庫県庁にあります．希望者には毎年メンタルヘルスに関する健診を行っています。 ·院内にハラスメント委員会を設置しました. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，18 時（水曜日 18 時 45 分）まで保育時間を延長する延長保育を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 22 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績　医療倫理 2 回，医療安全 6 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（2019 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2017 年度実績 10 回・10 体分）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（2018 年度実績 41 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 10 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2017 年度実績 4 演題）をしています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2018 年度実績 11 回）しています. ・治験センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2018 年度実績 12 回）しています. ・臨床研究センターを設置しています. ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭演者としての執筆が定期的に行われています.
指導責任者	楢原　啓之（ならはら　ひろゆき） 【内科専攻医へのメッセージ】

	兵庫県立西宮病院は、人口が増加している兵庫県西宮市の一等地（阪神電車から徒歩 1 分にあります．兵庫県立病院の中で最も歴史が古く、チーム医療・トータルケア（全人的医療）を実践しています．兵庫県内の連携施設や大阪大学医学部付属病院・兵庫医科大学と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています． ・本プログラムは，初期臨床研修修了後に院内の内科系診療科のみならず連携施設と連携して，質の高い内科専門医を育成するものです．医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，さらに医学の進歩に貢献して国内のニーズへの貢献を担える医師を育成することを目的とするものです．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 22 名，日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器病専門医 9 名，日本肝臓学会肝臓専門医 4 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名，日本内分泌学会専門医 1 名，日本腎臓学会腎臓専門医 3 名，日本糖尿病学会専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 13,342 名（1 ヶ月平均）入院患者 10,557 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．特に化学療法・肝がん経皮的治療・内視鏡治療においてはより高度な専門技術を習得することができます．
経験できる地域医療・診療連携	救命救急センターと緊密に連携してドクターカー・DMAT カーを含めて超急性期症例を経験できます．また急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設 日本胆道学会認定指導施設 日本禁煙学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本臨床腎移植学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設

(29) 大和郡山病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大和郡山病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対処する部署（総務企画課）があります。 ・専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 2 名在籍しています ・研修委員会を設置して、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2016 年度実績、医療安全 3 回、感染対策 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2016年度実績　臨床カンファレンス1回、合同カンファレンス週 1 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科 13 領域のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器神経、神経、救急の 7 領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	藤村　和代（副院長、消化器内科医長） 【内科専攻医へのメッセージ】 大和郡山病院は独立行政法人地域医療機能推進機構が所管する病院のひとつで、大和郡山市にある地域の中心的な急性期病院です。内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 1 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 9,000 名（1 ケ月平均）、入院患者 4,800 名（1 ケ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、7 領域、40 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 など

(30) りんくう総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人の非常勤医師（医師免許取得後 5 年目からは常勤医師）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地外ですがすぐ近くに院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・常勤の指導医は 14 名在籍しています。 ・研修委員会にて基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 14 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（りんくうカンファレンス、臨床集談会、泉州地域医療フォーラム、りんくう循環器ネットワーク研究会、りんくう糖尿病病診連携の会、泉州COPDフォーラム、泉州消化器フォーラム、南泉州神経フォーラムなど；2015 年度実績30回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2013 年度実績 10 体、2014 年度実績 9 体、2015 年度実績 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014年度実績6演題）をしています。
指導責任者	倭　正也 【内科専攻医へのメッセージ】 りんくう総合医療センターは、大阪府泉州医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏および近隣医療圏にある連携施設での内科専門研修を経て、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、さらに、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもった内科専門医になります。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本血液学会指導医 1 名 日本腎臓学会指導医 2 名、日本透析医学会指導医 2 名 日本リウマチ学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名 日本神経学会神経内科指導医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名 日本集中治療医学会専門医 1 名
外来･入院患者数	外来患者 4,481 名（1 ヶ月平均）入院患者 2,630 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会認定医制度教育関連施設 日本消化器内視鏡学会関連認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会連携研修施設 日本救急医学会救急科指導医・専門医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設　など

(31) 近畿大学奈良病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保証されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメント委員会が当院に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・近隣に院内保育園があり、医師の利用が可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 22 名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理（医療安全 4 回，感染対策 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型カンファレンス（2019年度実績1回）を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を含め，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2019年度実績　3演題）をしています．今後内科研修基幹病院として、年間3演題以上の発表をめざします.
指導責任者	渡瀬　謙仁 【内科専攻医へのメッセージ】 近畿大学奈良病院は、近畿大学病院、京都大学医学部附属病院や奈良県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです．単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです．また,様々な出身大学の医師が在籍していることもあり,大学病院であるにも関わらず各診療科間の垣根が低く,コンサルトも容易で,親しみやすい環境で充実した研修が可能です。

指導医数 （常勤医）	内科学会認定内科医 32 名，内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会専門医 9 名，日本循環器学会専門医 7 名， 日本内分泌学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名， 日本腎臓病学会専門医 2 名，日本呼吸器学会専門医 2 名， 日本血液学会専門医 3 名，日本神経学会神経内科専門医 1 名， 日本アレルギー学会専門医 3 名、消化器内視鏡学会専門医 6 名 日本感染症学会専門医 1 名，日本肝臓学会専門医 5 名， 日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名， 日本不整脈心電学会専門医 2 名，日本超音波学会専門医 1 名， 呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名，老年医学会専門医 1 名， 臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名，透析医学会専門医 1 名，
外来･入院患者数	外来患者 817 名（1 日平均）入院患者 335 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会認定医制度教育関連施設 日本消化器内視鏡学会関連認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会連携研修施設 日本救急医学会救急科指導医・専門医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設　など

(37) 神戸市立西神戸医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当職員・リエゾン担当看護師）があります。 ・ハラスメント委員会が機構内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 19 名在籍しています ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長），プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と学術研修部を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2020 年度：年 2 回開催予定）し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 10 回）し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・地域参加型のカンファレンス（2019 年度実績 13 回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2019 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記） ・専門研修に必要な剖検（2016 年度 11 体、2017 年度 12 体、2018 年度 14 体、2019 年度 12 体)を行っています
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています ・倫理委員会を設置し定期的に開催（2019 年度実施 2回）しています ・治験委員会を設置し定期的に受託研究審査会を開催（2019 年度実績12 回）しています ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2018 年度実績 6演題）をしています

指導責任者	永澤 浩志 【内科専攻医へのメッセージ】 西神戸医療センターは神戸市西区を中心とした西地域の中心的な急性期病院であり、地域に密着した救急医療と、がん診療連携拠点病院としての高度医療を 2 本柱としています。コモンディジーズから重症疾患まで、幅広い症例を経験できます。結核病棟（50 床）を有しており、結核症例も豊富です。 また、当院は平成 6 年の開院当初より地域医療室を開設しており、一貫して地域連携を推進しています。さまざまな病診、病病連携について経験可能です。
指導医数 （常勤医）	内科学会指導医 19 名、内科学会総合内科専門医 15 名、 日本消化器病学会専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 2 名、 日本循環器学会専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、 日本血液学会専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医 2 名、
外来･入院患者数	外来患者 12,338 名（1 ヶ月平均）入院患者 5,408 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設など

(39) 兵庫県立尼崎総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要なメディカルライブラリーとインターネット環境があります．学術情報が検索できるデータベース・サービスが利用できます. ・当院での研修中は、兵庫県臨時的任用職員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所及び病児・病後児保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 54 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（教育部長：総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2018 年度実績 9 回, 2019 年度 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2017 年度開催実績 1 回， 2018 年開催実績 2 回， 2019 年合同開催 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）. ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 12 体,2018 年度実績 18 体,2019 年度実績 14 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています. ･倫理委員会を定期的に開催（2018年度実績3回）しています. ･治験管理室(クリニカルリサーチセンター)を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2018年度実績12回）しています. ･日本内科学会講演会地方会に年間3演題以上の学会発表（2017年度3演題、2018年度13演題、2019年6演題）をしています.

指導責任者	竹岡浩也 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立尼崎総合医療センター（AGMC）は、兵庫県阪神南医療圏の中心的な高度急性期病院です．転居することなく，通勤可能圏内での連携施設研修ができる選択肢があります．研修施設群には十分な症例数があり、専門研修 1 年目と 2 年目で症例目標は達成できると考えています． 当院内科系専門診療科のモットーは「ジェネラルにも対応できる専門医養成」です．下欄に示すように内科系サブスペシャリティ専門医・指導医を多数擁しております．内科専門医研修でジェネラルをおさえつつ、サブスペシャリティを究めていただきたい．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 54 名、日本内科学会総合内科専門医 36 名、 日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本内分泌学会専門医 2 名、 日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 6 名、 日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本老年学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名
外来･入院患者数	外来患者 1,839 名（1 日平均）入院患者 688 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定専門医教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医診療施設 日本心血管インターベーション学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

(40) 宝塚市立病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度教育関連病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（経営統括部職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が宝塚市役所に整備されています。 ・女性医師が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、 シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 12 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（専門研修プログラム責任者宮島部長、副専門研修プログラム責任者田中弘教）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を 義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間 的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（内科症例カンファレンス等）を定期的 に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます（年 1 回院内で開催）。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち全分野（少なくとも 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）に ついて研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研修必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し、随時受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表をしています。

指導責任者	宮島　透 【内科専攻医へのメッセージ】 　宝塚市立病院は兵庫県二次医療圏である北阪神地区の中心的な急性期病院であり、 北阪神地区および近畿医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じ適切な処置のできる、兵庫県全域を支える内科専門医の育成を目指します。
指導医数 （常勤医）	内科学会指導医 12 名、内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会専門医 6 名、日本消化器内視鏡学会専門医 5 名 日本肝臓病学会専門医 4 名、日本循環器学会専門医 4 名 日本呼吸器学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 2 名 日本内分泌学会専門医 1 名、日本血液病学会専門医 1 名 日本リウマチ学会専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 2 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名 日本感染症学会専門医 1 名
外来･入院患者数	外来患者 6,823 名（1 ヶ月平均）入院患者 4,135 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会指導医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本カプセル内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本感染症学会連携研修施設　など

(43) 大津赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・大津赤十字病院医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります. ・ハラスメントに関する委員会が大津赤十字病院内規程に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるよう，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 15 名在籍しています（下記）. ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（副院長）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 9 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2018 年実績 10 件、2019 年度実績 12 体，2020 年度 6 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ・治験審査委員会を設置し受託研究審査会を開催しています ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています.

指導責任者	河南　智晴 【内科専攻医へのメッセージ】 滋賀県下で最大病床数の基幹病院としての特徴を生かし、高度な研修が可能です。例えば、以前からの救命救急センターが平成25 年 8 月には改めて高度救命救急センターの指定を受けています。その他、68 項目の研修認定施設で、将来どの分野を専攻するにしても、充実した指導体制の中で高度な研修ができます。中でも内科は、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、血液・免疫内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、化学療法科の 8 診療科がそれぞれの専門性を保ちつつも緊密に協力しており、総合的で、かつ救急にも対応できる研修が可能です。積極的な参加を期待します。
指導医数 （常勤医）	内科学会指導医 15 名、内科学会総合内科専門医 15 名
外来･入院患者数	外来患者 29,108 名（1 ヶ月平均）入院患者 1,310 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本血液学会認定医血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本老年医学会認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導施設　など

(44) ツカザキ病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院で NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。 ・研修に必要な図書室とオンライン購読可能な書籍を多数用意、個別のインターネット環境を整備、また電子カルテ上で参照可能な診療データベースを利用できます。 ・ツカザキ病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に 24 時間体制の院内託児所があり、24 時間 365 日利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医が 8 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病診・病病連携カンファレンス 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、血液、神経、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2019年度実績2演題）を予定しています。
指導責任者	飯田 英隆 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は姫路市西部に位置し、病床数は241床でHCU6床、SCU12床を有し、播磨姫路医療圏の急性期・救急医療を担っています。地域の 1 次～3 次の救急、および高度専門医療までの幅広い症例を受け入れ、全人的で EBM に基づいた医療を実践し、「患者本位の医療」を行っています。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　8 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本循環器学会専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本消化器病学会専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 1 名
外来･入院患者数	外来患者 3,208 名（1 ヶ月平均）入院患者 151 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定教育施設　など

(45) 大阪刀根山医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（窓口：管理課）があります。 ・ハラスメントに適切に対処する部署（窓口：管理課）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です（定期利用のみ）。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 16 名在籍しています（2021 年 4 月現在） ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理。医療安全。感染対策講習会を定期的に開催（2020 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2020 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2019 年度実績 11 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 2 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2019 年度 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2017年度実績1演題）をしています。
指導責任者	金津　正樹 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪刀根山医療センターは、豊中市にある呼吸器疾患と神経疾患の専門病院であり、両領域の基幹施設です。基幹施設と連携して内科専門研修を行います。専攻医の研修目的に合わせたプログラムで、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、 日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、 日本神経学会神経内科専門医 8 名、

外来･入院患者数	外来患者 3,786 名（1 ヶ月平均）入院患者 303 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 2 領域、15 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設　など

(46) 神戸市立医療センター中央市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸市立医療センター中央市民病院の任期付正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対応出来るよう相談窓口（市役所）を設置しています。 ・ハラスメントの防止及び排除並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合、迅速かつ適切な問題解決を図るためハラスメント相談窓口及びハラスメント防止対策委員会を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 43 名在籍しています。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療安全：6 回、感染対策：2 回、医療倫理：2 回）し、　専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（腹部超音波カンファレンス、びまん性肺疾患勉強会、がんオープンカンファレンス、緩和ケアセミナー　など　2019 年度実績 39 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 34 体、2018 年度実績 21 体、2019 年度実績 26 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、学術支援センターなどを設置しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究推進センターを設置しています。 ・定期的にIRB、受託研究審査会を開催（2019年度実績11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019年度実績11演題）をしています。

指導責任者	石川　隆之 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の診療体制の大きな特徴は、北米型 ER（救命救急室）、つまり 24 時間・365 日を通して救急患者を受け入れ、ER 専任医によって全ての科の診断および初期治療を行い、必要に応じて各専門科にコンサルトするというシステムにあります。年間の救急外来患者数は 31,000 人以上、救急車搬入患者数も 9,100 人を超え、独立した救急部と各科スタッフ、初期研修医、専攻医が緊密に連携して、軽傷から重症までのあらゆる救急患者に対応しています。この中で専攻医は初期研修から各科の専門的診療に至る過程で重要な役割をはたしており、皆さんがどの診療科を選択しても、大学病院など 3 次救急に特化した施設では得られない、医療の最前線の広範な経験を重ねることができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 43 名、日本内科学会総合内科専門医 39 名 日本消化器病学会専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医 1 名 日本循環器学会専門医 9 名、日本リウマチ学会専門医 1 名 日本内分泌学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 4 名 日本腎臓学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会専門医 7 名、日本老年医学会専門医 1 名 日本血液学会専門医 8 名、日本肝臓学会専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 7 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 7 名　　ほか
外来･入院患者数	外来 37,307 名（1 ヶ月平均）入院 20,816 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 2 領域、15 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設　など

(47) 神戸神鋼記念病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神鋼記念病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事所管室職員担当）があります。 ・ハラスメント相談員が人事所管室に専従しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に契約保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は 29 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年 3 回程）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（神鋼記念病院地域連携講演会、東神戸総合内科講演会、東神戸臨床フォーラム、東神戸呼吸器疾患講演会、神鋼循環器セミナー、神鋼糖尿病セミナー、神戸膠原病腎臓カンファレンス、など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器、血液、膠原病、神経、代謝、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・総合医学研究センターを設立し、医学・医療の発展のために臨床医学研究を推進し、高度先進医療の支援や共同研究を行なっています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·治験委員会を設置し、定期的に審査会を開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（年間7～8演題）をしています。
指導責任者	塩　せいじ 【内科専攻医へのメッセージ】 　神鋼記念病院は、神戸の中心地に位置する急性期総合病院であるとともに、地域に根ざした第一線の病院でもあります。このことから臓器別の Subspecialty 領域（総合内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、血液内科、リウマチ膠原病内科、神経内科、糖尿病代謝内科、腫瘍内科、救急）に支えられた高度な急性期医療とコモンディジーズが同時に経験できます。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 29 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会専門医 7 名、日本循環器学会専門医 5 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 5 名、 日本血液学会専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本アレルギー学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本肝臓学会専門医 1 名、　ほか
外来･入院患者数	外来患者 20,815 名（1 ヶ月平均）入院患者 9,471 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 2 領域、15 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、 臨床研修研究会臨床研修指定病院、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本消化器病学会専門医制度認定施設、 日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本リウマチ学会教育施設、 日本血液学会血液研修施設、 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 アレルギー学会認定施設、 日本脳卒中学会認定施設、 日本神経学会准教育施設、 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関　など

(48) 高槻赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・高槻赤十字病院嘱託医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所・病児保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 11 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を人事課に設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 20 回）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2019 年度：受講者 6 名、現在インストラクター2 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に人事課が対応します。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2019 年度実績 10 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019年度実績1回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2019年度実績12回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2019年度実績4演題）をしています。

指導責任者	神田　直樹 【内科専攻医へのメッセージ】 　高槻赤十字病院は、大阪府北部に位置する北摂地域の中心的な急性期病院の一つです。subspecialty 各領域の研修とともに、中規模病院の特徴である各科の垣根の低い横断的な研修が可能で、総合力にも専門性にも優れた内科専門医の育成を目指します。救急患者も年間 6,793 例受け入れており総合的な内科疾患初期対応の研修が行えるだけでなく、研修後半の志望科の Subspecialty の研修にも力をいれており、十分な専門的症例・検査・処置数があり充実した研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会専門医 6 名、日本循環器学会専門医 3 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本肝臓病学会専門医　3 名、 日本呼吸器学会専門医 7 名、日本血液学会専門医 4 名、 日本アレルギー学会専門医 2 名、日本内分泌学会専門医 1 名 日本救急医学会専門医 1 名、ほか
外来･入院患者数	外来患者 8,833 名（1 ヶ月平均）入院患者 6,300 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 2 領域、15 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。稀な疾患も、大学病院などと連携しできる限り体験できる体制にしています。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設　など

(49) 星ヶ丘医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·星ヶ丘医療センター任期付医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ·ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·病児保育があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 11 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者（部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 23 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年実績なし）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025年度実績6回）しています。 ·治験管理室を設置し、定期的に臨床研究審査委員会を開催（2025年度実績7回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2017年度実績3演題）をしています。

指導責任者	髙橋 務 【内科専攻医へのメッセージ】 星ヶ丘医療センターは、大阪府北河内二次医療圏の中心的な急性期病院であり、北河内医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会専門医 15 名 日本内科学会総合内科指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会指導医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本消火器内視鏡学会専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本糖尿病学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本神経学会神経内科指導医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本感染症学会指導医 0 名、日本感染症学会専門医 1 名　ほか
外来･入院患者数	外来患者 25,819 名/年　新入院患者 1,702 名/年 ※2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医教育関連施設 日本脳卒中学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修連携施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本臨床細胞学会認定教育研修施設 など

(50) 川崎病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境を整備しています。 ・医療法人川崎病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ストレスチェックの実施を全職員に推奨しており，ストレスの高い職員への産業医受診を勧めています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・働き方改革関連法に準じた労務環境の構築に向けて，「医師働き方推進室」を設置しております（事務職 2 名専従）。 ・各種ハラスメント相談窓口が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。夜間保育も行っています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 17 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（内科統括部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理室を設置します。 ・医療倫理，医療安全，感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績：講演会各 2 回、計 6 回　適宜 e-learning 実施）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019 年実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（院内学術集会，院内感染対策講習会，地域連携セミナー，兵庫区循環器研究会，兵庫区消化器連携セミナー，心不全カンファレンスなど；2019 年度実績：18 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。

指導責任者	松田　守弘 【内科専攻医へのメッセージ】 医療法人川崎病院は，兵庫県神戸医療圏の中心的な急性期病院であり，神戸医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 17 名　　日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器病専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名　　日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 1 名　　日本透析医学会専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 1 名　　日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者数：568.0 名/日　入院患者数：215.2 名/日 （2020 年 4 月～2021 年 2 月の一日あたり患者数平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会暫定指導施設 日本大腸肛門学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本血液学会認定医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本動脈硬化学会専門医教育病院 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設

(51) 九州大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育, 病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・常勤の指導医は 134 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会を設置し、卒後臨床研修センターと協働してプログラムに沿った研修ができるように調整します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　医療倫理 1 回(4 月に就職時に参加が必須。今後は年度内に複数回の定期開催を予定)，医療安全 40 回，感染対策 40 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 85 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 6 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，リウマチ, 膠原病，感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績　22 演題）をしています．。
指導責任者	山口　享子 【内科専攻医へのメッセージ】 　九州大学病院は福岡県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に協力病院として大学病院の内科系診療科も加わることで、リサーチマインドの育成などを含む質の高い内科医の育成を目指します。また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全・倫理を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 106 名 日本消化器病学会消化器専門医 38 名、日本肝臓病学会専門医 10 名 日本循環器学会循環器専門医 27 名、日本腎臓学会腎臓専門医 12 名 日本内分泌学会内分泌専門医 14 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 15 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 14 名、日本血液学会血液専門医 10 名 日本神経学会神経内科専門医 19 名、日本リウマチ学会専門医 4 名 日本感染症学会専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医 7 名
外来・入院患者数	内科外来患者 16,600 名/月平均　内科入院患者 10,303 名/月平均
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本東洋医学会教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設

(52) JCHO 大阪病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地域医療機能推進機構大阪病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスについては、産業医、心理療法士及び総務企画課長が適切に対処します。 ・ハラスメントについては、総務企画課長が対処します。 ・女性専攻医でも安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 17 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・専攻医に医療安全セミナーを年 2 回以上、感染対策セミナーを年 2 回以上の受講を義務づけます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・CPC を原則毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 6 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 56 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（年平均 10 体以上）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会（年 4 回）と治験審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は治験審査委員会が担当し、受託研究審査委員会（適宜開催）で審査しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。

指導責任者	金子　晃 【内科専攻医へのメッセージ】 地域医療機能推進機構大阪病院は、大阪府 2 次医療圏である大阪市西部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるように研修を行い、総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 17 名　　日本内科学会認定医 17 名 日本内科学会総合内科専門医 17 名　日本循環器学会専門医 7 名 日本消化器病学会専門医 6 名　　日本肝臓学会専門医 5 名 日本呼吸器学会専門医 2 名　　日本腎臓病学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名　日本消化器内視鏡学会専門医 5 名 日本神経学会専門医 2 名　　アレルギー学会認定専門医 1 名
外来・入院患者数	内科外来患者 93,014 名/年、内科入院患者 54,159 名/年
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	総合病院における急性期医療だけでなく、地域に根ざした中核病院における医療、病診・病病連携なども経験できます。また全国規模の地域医療機能推進機構のスケールメリットを生かした、僻地医療も経験もできます。
学会認定施設 （内科系）	日本神経学会専門医教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設　　日本膵臓学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設　日本呼吸器内視鏡学会診療施設 日本腎臓学会研修施設　　日本透析医学会専門医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設　日本脳卒中学会研修教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修基幹施設

(54) 西宮渡辺心臓脳・血管センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・ 医局内にはインターネットへ接続可能なデスクトップコンピュータがあり、WiFi 環境も整えています。 ・ 心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理し、特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・ 法人施設内には 2 か所の保育施設を有しており、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・ 常勤の指導医は 3 名在籍しています。 ・ 連携施設として研修委員会を設置し，基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります. ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講していただきます。 ・ 院外の参加者も含めた多職種カンファレンスを定期的に行っており、専攻医に参加していただきます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に参加していただきます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・ 循環器領域におけるほぼすべての疾患を経験することが可能です。また、心臓血管外科と一つのチームとして診療しているため、心臓血管外科領域の研修も同時に可能で連続した診療を経験できます。 ・ 循環器疾患・脳外科疾患の専門分野のおける急性期疾患の救急搬入が多く、幅広く初期対応の経験を積むことができます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・ 研修プログラムの一環として内科学会あるいは循環器学会に演題を提出し毎年発表を行っています。その他希望があればカテーテルの研究会や心エコー図学会等でも発症を行っています。 ・ 専攻医が学会発表を行うことを推奨しており、和文・英文論文の指導も行います。希望に応じて臨床研究についての指導も行います。
指導責任者	合田　亜希子（指導医氏名） 【内科専攻医へのメッセージ】 西宮渡辺心臓脳・血管センターは、西宮周辺地域の心臓脳・血管疾患診療を 24 時間 365 日休むことなく行っています。循環器内科においては、すべての疾患を網羅しており、特に急性期患者が多いことが特徴です。インペラ(IMPELLA)補助循環用ポンプカテーテルや ECMO など最新の装置があり、不整脈に対するアブレーション治療や TAVI 実施施設でもあります。また心血管エコーセンターは、ハイスペックな計 6 台の超音波診断装置を有し、高い技術で定評です。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 6 名　日本内科学会専門医 1 名 日本循環器学会専門医 10 名 日本心血管インターベンション学会専門医　5 名 日本超音波医学会専門医・指導医　2 名 日本脳卒中学会専門医　2 名、 日本脳神経血管内治療学会認定専門医　1 名、 日本不整脈学会専門医　2 名 日本集中治療医学会　認定集中治療専門医 2 名
外来･入院患者数	外来患者 3,582 名（平均延数/月）入院患者 2968 名（平均数/月）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の内、循環器、代謝、神経、救急について十分な症例を経験することができます。総合内科、消化器、内分泌、腎臓、呼吸器、アレルギー、感染症についても一部の疾患を経験することができます。特に循環器疾患については虚血性心疾患（急性心筋梗塞、狭心症など)、弁膜症（TAVI 治療や開心術を含む)、不整脈（疾患アブレーション治療を含む)、心筋症、大動脈疾患、末梢動静脈疾患、心膜疾患など広い範囲の循環器疾患を経験できます。脳卒中を中心とした脳神経外科疾患も経験可能です。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、循環器・救急領域において集中的に経験することができます。基本的診療技能に加え、循環器領域の技術・技能はすべて経験可能です。PCPS 以外にもインペラも導入しており経験可能です。そのほか弁膜症チームを設置しており、TAVI 症例も経験可能です。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療を担う医院、クリニックと連携しているだけでなく、同法人施設として、回復期病棟や地域包括ケア病棟をもつ西宮渡辺病院・西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院や特別養護老人ホーム、訪問看護ステーションとの連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	補助人工心臓治療関連学会協議会 インペラ部会 循環器専門医研修関連施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本成人心臓血管外科手術データベース施設認定 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 ステントグラフト実施施設（胸部） ステントグラフト実施施設（腹部） 一次脳卒中センター 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 2017 年度循環器疾患診療実態調査参加施設

(55) 兵庫医科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地域医療機能推進機構大阪病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。 ・心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理し、特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように環境が整備されています。 ・隣接地の保育園に当院専用枠が 50 名分あり、事前手続きにより利用可能です。また、院内に病児保育室も整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 68 名在籍しています。 ・本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を兵庫医科大学病院に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催しています。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に、臨床研修センターとプログラム管理委員会とで対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・兵庫医科大学病院には 10 の内科系診療科があり、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて経験すべき全 70 疾患群を全て充足可能です。 ・専門研修に必要な剖検数を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会および治験管理委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会、地方会に毎年学会発表をしています。

指導責任者	木島　貴志 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫医科大学病院は、阪神地区における基幹病院であり、急性期疾患から起床疾患まで多岐にわたる疾患群の研修が可能です。大学病院という特性から、先進的医療が充実していますが、一方、地域医療の実践も重視しており、バランスの取れた内科研修を行うことが出来ます。また教育スタッフも豊富で、臨床のみならず、臨床研究も行っており、各位の希望に沿った研修が期待できます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 68 名　日本内科学会総合内科専門医 63 名 血液専門医 8 名　日本消化器病学会消化器専門医 41 名 日本糖尿病学会認定専門医 18 名　日本内分泌学会専門医 11 名 日本リウマチ学会専門医 15 名　日本循環器学会専門医 24 名 日本消化器内視鏡学会専門医 30 名 日本呼吸器学会専門医 7 名　日本神経学会専門医 7 名 日本腎臓学会認定専門医 9 名　日本透析医学会認定専門医 10 名
外来・入院患者数	外来患者数：217,953（延人数）・入院患者数：104,085（延人数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の全てを経験することが出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院は急性期病院であり、回復期病棟や地域包括ケア病棟、あるいは緩和ケア病棟を持つ連携病院と一体となって、退院後も継続して患者を経過観察できる体制となっています。
学会認定施設 （内科系）	日本アレルギー学会　日本がん治療認定医機構 日本リウマチ学会　日本肝臓学会　日本血液学会 日本呼吸器学会　日本呼吸器内視鏡学会 日本循環器学会　日本心血管インターベンション学会 日本消化器内視鏡学会　日本消化器病学会 日本緩和医療学会　日本静脈経腸栄養学会　日本動脈硬化学会 日本不整脈学会　日本神経学会　日本大腸肛門病学会 日本超音波医学会　日本糖尿病学会　日本透析医学会 日本頭痛学会　日本内科学会　日本内分泌学会 日本脳卒中学会　日本輸血・細胞治療学会 日本臨床細胞学会　日本臨床腫瘍学会 日本臨床神経生理学会　日本老年医学会　日本 IVR 学会 日本カプセル内視鏡学会　日本高血圧学会　日本消化管学会 日本胆道学会

(53)埼玉医科大学国際医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・臨床研修指定病院（基幹型）です。 ・研修に必要な図書館、インターネット環境が整備されています。 ・埼玉医科大学国際医療センターとして労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対処する部署があります。 ・休憩室、更衣室、当直室、シャワー室が整備されています。 ・敷地内に保育所があります。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 48 名在籍しており、研修委員会が設置されています。研修委員会は関西医科大学附属病院のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催しており、専攻医には受講を義務付け、参加できる時間的余裕を与えます。 ・基幹施設の主催する研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（主催：埼玉医科大学病院群）
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、血液、神経および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち、52 疾患群について研修が可能です。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会にて年間計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	水出　雅文
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 48 名（うち、総合内科専門医数 32 名）
外来・入院患者数	外来患者数：13,699 名／年（実数）、入院患者：17,206 名／年（実数）
経験できる疾患群	・総合内科、消化器、循環器、呼吸器、血液、神経および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・その他の分野は症例数が少ないながらも経験することは可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療や病診・病病連携などが経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度による研修教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科 日本呼吸器学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設　等

(54)東邦大学医療センター佐倉病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対して研修委員会と労働安全衛生委員会にて適切に対処します。 ・ハラスメント委員会が総務課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 30 名在籍しています。 ・本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を東邦大学医療センター佐倉病院に設置し、その委員長と内科各グループから 1 名ずつ管理委員を選任し ます。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会をそれぞれ年に 2 回以上開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・地域参加型カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・年 2 回東邦大学医療センター大森病院（本院）においてJMECC プログラムを開催し、当院に所属する全専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に事務部総務課が対応しています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のほぼ全疾患群（少なくても 9 割以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度 8 体）を行っています。

認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 11 回）しています。
指導責任者	松岡克善 【内科専攻医へのメッセージ】 東邦大学医療センター佐倉病院は 1991 年に開院し、30 年の歴史を刻んでおります。佐倉は医学にゆかりのある場所で、西の適塾と並んで西洋医学の発祥の地の一つされた蘭医学塾である佐倉順天堂が幕末に佐倉藩によって設置されています。この地で我々は地域中核医療機関である大学病院として、①地域に信頼される専門・先端診療の実践、②病気の解明と臨床研究の推進、③すぐれた臨床能力を持つ専門医の育成を使命として日々活動をしています。その中で「病気を診ず、人を見ること」をモットーに診療にあたっています。佐倉内科講座は総合内科医局として運営されていることに大きな特徴があります。内科講座には消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・糖尿病代謝内分泌内科・神経内科・血液内科・腎臓内科とすべての部門がそろい、5 名の教授と 1 名の臨床教授が所属していますが、これら専門診療科が一つのグループである内科学講座として運営されており、極めて各診療科間の垣根が低く、良好な診療・研究・教育環境となっています。このような内科講座の運営は全国的にも極めて珍しいもので、総合診療能力のある内科専門医が多く巣立っています。我々内科講座は病気を全人的観点からとらえ、患者さんに寄り添って診療にあたっており、そのために診療科間の垣根を超えて、メディカルスタッフとともに多職種によるチーム医療を実践することを日夜取り組んでいます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 30 名 日本内科学会総合内科専門 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本腎臓学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本脳神経学会脳神経内科専門医 2 名 日本リウマチ学会専門医 1 名

	日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医７名 日本アレルギー学会専門医１名 日本内分泌学会内分泌代謝専門医１名
外来・入院患者数	外来：103,838 名/入院：10,467 名
経験できる疾患群	内科研修に必要な 13 領域 70 疾患群のうち 12 領域 65 疾患群程の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本アレルギー学会准教育研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本神経学会准教育施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会研修施設 日本血液学会専門研修教育施設 日本透析医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会肥満症専門病院 日本内分泌学会認定教育施設 日本不整脈心電学会専門医研修施設

(55)国立病院機構名古屋医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・専門研修、後期研修もしくは指導医に対する労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに対処する部署が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 30 名在籍しています。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・2023 年度　臨床研究審査委員会：12 回開催、治験審査委員会：12 回開催、研究倫理委員会：11 回 ・研修施設群合同カンファレンスに関しては定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 4 回、2023 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 専門研修に必要な剖検（2022 年度 7 体、2023 年度 5 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年約 5 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	小林　麗

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 30 名 日本内科学会総合内科専門医 31 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本内分泌学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 6 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名 日本リウマチ学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名 老年医学会専門医 1 名 肝臓学会専門医 3 名 消化器内視鏡学会専門医 4 名 不整脈専門医　1 名 胃腸科専門医 1 名 超音波専門医 1 名 日本甲状腺学会専門医 2 名 日本脳卒中学会専門医 1 名 認知症学会専門医 1 名ほか　(2025 年 3 月)
外来・入院患者数	外来患者（新患）1771 名（1 ヶ月平均）、入院患者（新入院)1131 名（1 ヶ月平均）2023 年度
経験できる疾患群	・きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設

	日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設　など

(56)医誠会国際総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	·2023 年 10 月に新築移転し，医師体制，医療体制や設備が充実しました。 ·初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·医誠会国際総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（法人本部）があります。 ·業務監査室･コンプライアンス推進室が法人本部に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるよう，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ·育児，介護との両立が必要な職員には，時差出勤，時短勤務の制度が整備されています。 ·院内に保育所（病児保育も可能）があり，専攻医も使用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医は 21 名在籍しています（下記）。 ·内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理室を設置します。 ·医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理室が対応します。 ·特別連携施設（児島中央病院）の専門研修では，テレビ会議や週 1 回の医誠会国際総合病院での面談・カンファレンス等により指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。

	･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検（2024 年度 6 体、2025 年度 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 13 題）しています。 ･日本内科学会講演会，同地方会，内科系学会にて 2025 年度は計 3 演題の学会発表をしています。
指導責任者	外山　康之 【内科専攻医へのメッセージ】 医誠会国際総合病院の内科専門研修プログラムは，専門領域に極端に重心を置くのではなく，特別連携施設のへき地医療に活かせるような経験や思考を身に着けることも目的としています。超高齢化社会を迎え，医師自身も生涯現役が求められる時代を生き抜く中では，急性期医療において発揮される専門特化した知識・技術のみならず，療養施設での慢性期医療にも抵抗感を抱かずに，全人的医療を提供できる内科医を目指すことが望ましいと考えます。 又，3 年間の研修修了後は，ご自身のご希望される専門領域の研修を研鑽頂く指導体制，医療体制，症例がありますので，さらにご活躍頂けるよう，勤務環境を整えております。 急性期と慢性期，専門医療と全人的医療の両方をバランスよく身に着けることは容易ではありませんが，医誠会グループ，ホロニクスグループという組織を最大限に活用した研修を通じて，将来の日本の医療を支える人材に成長することを共に目指したいと思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医　19 名 日本老年医学会指導医　2 名 日本消化器病学会消化器専門医　9 名（うち指導医 3 名） 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医　10 名（うち指導医 2 名） 日本循環器学会循環器専門医　12 名 日本糖尿病学会専門医　2 名（うち指導医 2 名） 日本呼吸器学会呼吸器専門医　3 名（うち指導医 2 名） 日本神経学会専門医　4 名（うち指導医 2 名） 日本救急学会救急専門医　15 名（うち指導医 1 名） 日本集中治療医学会専門医　8 名 日本内分泌学会専門医　1 名 日本糖尿病学会研修指導医　2 名

	日本リウマチ学会リウマチ専門医　　1名（うち指導医1名） 日本腎臓学会 腎臓専門医　　1名（うち指導医1名） 日本透析医学会 透析専門医　　2名（うち指導医2名） 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医　1名（うち指導医1名） ほか
外来・入院患者数	外来患者　12,079名（1ヵ月平均）　入院患者　1,536名（1ヵ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度特別関連施設 日本老年医学会認定施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本胆道学会指導施設 日本膵臓学会指導施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ステントグラフト実施施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 病院総合医育成プログラム など

(57)若草第一病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員メンタルヘルス相談）があります。 ・ハラスメントに関しての相談窓口が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・常勤の指導医は 19 名在籍しています。 ・連携施設として研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会を設置し、卒後臨床研修センターと協働してプログラムに沿った研修ができるように調整します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績内科系 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち､8 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 45 疾患群程度について研修できます。 ・剖検数については、2024 年度 2 体を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 12 回）しています。 ・インターネットにおける文献検索の充実化を医師、専攻医の要望により図っています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 2 演題）をしています。
指導責任者	岡田 章良（消化器科 診療部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 若草第一病院は東大阪市の二次救急を担当しており、大阪府地域医療支援病院でもあります。各専門診療科では常に最新の専門性を生かした医療を実践し、地域医療機関と密接に連携して地域医療の質の向上と地域完結型医療を推進しています。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医 14 名 日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本肝臓病学会専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本感染症学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 20,881 名/年　入院患者 3,478 名/年
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち，8 領域、45 疾患群程度の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術、技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術、技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本病院総合診療医学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会関連施設 日本胆道学会指導施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本炎症性腸疾患学会関連施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本感染症学会研修施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本血液学会研修教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養治療学会 NST 稼動認定施設 日本栄養治療学会 NST 教育認定施設

(58)奈良県総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・有期専門職員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があり、月に 1 度メンタルヘルス相談会が開催されています。 ・ハラスメント防止委員会が奈良県総合医療センターに整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 25 名在籍しています（下記） ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者･プログラム管理者：副院長兼感染症内科部長，専門医研修プログラム準備委員会から 2017 年度に移行）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修医支援室になります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会（ICT 勉強会）を定期的に開催（2024 年度実績：医療安全講習会 12 回，感染対策講習会（ICT 勉強会）12 回,呼吸サポートワーキング勉強会 3 回，）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：奈良県総合医療センター病診・病病連携医療講座、集学的がん治療勉強会,緩和ケア勉強会を定期的に開催し，専攻医　に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修支援室が対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域全領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）.

	・専門研修に必要な剖検（2024 年度 9 体 2023 年度 9 体、2022 年度 3 体、2021 年度 7 体、2020 年度 8 体、2019 年度 12 体, 2018 年度実績 15 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 22 回）しています. ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2024 年度実績 11 回） しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	前田　光一 【内科専攻医へのメッセージ】 奈良県総合医療センターは，奈良県北和医療圏の中心的な急性期病院であり，近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　19 名 日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名 日本肝臓学会肝臓専門医 6 名 日本内分泌学会専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本腎臓病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 6 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 20 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,305 名（1 日平均）　入院患者 428 名（1 日平均）　※ 2024 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設

(59)神戸赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度教育病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸赤十字病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（心療内科）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性医師が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 19 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者、プログラム管理委員会委員長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（HAT 呼吸器疾患検討会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（すくなくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。

認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研修必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し、随時受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会 発表（2017 年実績 15 演題）をしています。
指導責任者	土井　智文　副院長兼内科部長 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸赤十字病院は兵庫県神戸市医療圏の中心的な急性期病院であり、西播医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院まで啓示的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整も包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	内科学会総合内科専門医１名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医１名 日本消化器内視鏡学会専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医１名 日本臨床神経生理学会専門医１名 日本脳卒中学会専門医１名 日本認知症学会専門医１名 日本救急医学会救急科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者　510.2 名（前年度１日平均患者数） 入院患者　249.1 名（前年度１日平均患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、７０疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期疾患だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本神経学会認定准教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会認定医制度研修診療施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本リウマチ学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

(60)奈良県立医科大学附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・奈良県立医科大学附属病院の医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）があります。 ・ハラスメントに係る規程が整備され、必要に応じて委員会が開催されます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室, シャワー室, 当直室が整備されています。 ・病院の至近距離(50m)に院内保育所があり、病児保育の体制も整っています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 116 名在籍しています。（按分前）（下記参照） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の委員会・講習会を定期的に開催（2024 年度実績：倫理セミナー（12 回実施）、医療安全研修会（e-leaning で 8 項目実施）、感染対策研修会（e-leaning で 6 種類実施））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・臨床医として優秀かつ教育実績のある医師を国内外から広く招聘し、専攻医の臨床能力向上に努めています。（Dr. N プロジェクト）
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、内分泌、アレルギーを除く、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。(連携施設からの按分症例数を含めると充分です)
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会或いは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 19 演題）をしています。

指導責任者	吉治　仁志 【内科専攻医へのメッセージ】 　奈良県立医科大学附属病院は多くの協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて、質の高い内科専門医育成を目指しています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、内科専門医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 116 名 日本内科学会総合内科専門医 57 名 日本消化器病学会専門医 29 名 日本肝臓学会肝臓専門医 26 名 日本循環器学会専門医 18 名 日本内分泌学会専門医 9 名 日本腎臓病学会専門医 16 名 日本糖尿病学会専門医 12 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 16 名 日本血液学会血液専門医 9 名 日本神経学会神経内科専門医 19 名 日本アレルギー学会専門医(内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 4 名 日本感染症学会専門医 8 名 日本老年医学会専門医 5 名 日本消化器内視鏡学会専門医 23 名 臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名　ほか
外来・入院患者数	
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除き、連携施設群の症例を合わせて、研修手帳(疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本動脈硬化学会専門医認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 TAVR（経カテーテル的大動脈弁置換術）実施施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定専門医施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器がん検診学会認定医制度指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本リハビリテーション医学会専門研修プログラム基幹施設 日本神経病理学会認定施設 日本認知症学会教育施設 日本頭痛学会認定教育施設 総合診療専門研修プログラム基幹施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定総合医・家庭医研修プログラム研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定施設 日本東洋医学会研修施設

	ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設　など

(61)日本生命病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本生命病院常勤医師としての労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床研修部及び総務人事グループ担当）があります。 ・ハラスメント相談窓口が設置されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 14 名在籍しています。（2025 年 4 月現在） ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医 JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 の疾患群のうちほとんどの疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・倫理委員会および治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	橋本　久仁彦 【内科専攻医へのメッセージ】 日本生命病院は、「済生利民」を基本理念とする日本生命済生会が昭和 6 年に設立しました。現在では 29 診療科・8 診療センター、病床数 350 を擁する大阪西部地域の基幹病院へと発展しており、予防から治療・在宅まで一貫した医療サービスの提供を実践しています。急性期医療だけでなく慢性期医療や地域医療にも貢献し、全人的医療を行うとともにリサーチマインドを持った内科専門医を育成します。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名、 日本内科学会総合内科専門医 17 名、 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名、 日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会専門医 4 名、 日本高血圧学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 4 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会専門医 1 名、 日本腎臓学会専門医 2 名、 日本透析医学会専門医 2 名、 日本老年学会老年病専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 392 名（一日平均）　入院患者 163 名（一日平均）(2024 年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会専門医制度研修施設

	日本胆道学会指導施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会専門医準教育施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本造血細胞移植学会非血縁者間造血細胞移植認定施設（診療科） 日本認知症学会専門医制度教育施設 （2025 年 4 月 1 日現在）

(62)獨協医科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・レジデント（専攻医）として労働環境が保証されます※原則 3 ヵ月以上のローテート者のみ。3 ヵ月未満のローテート者は基幹病院からの見学者として受け入れるため当院からの給与・手当の支給はありません。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神科産業医）があります。 ・ハラスメントを取り扱う委員会があります。 ・休息室、更衣室、シャワー室、当直室（女医専用当直室あり）が整備されています。 ・提携した保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科学会指導医は 76 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者；消化器内科部長）、プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）が基幹施設と連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会が設置されています。 ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（日本専門医機構認定共通講習会）し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスを定期的に開催し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け（院内コース年 2 回開催）、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。

認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室やインターネット環境を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方回に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	プログラム統括責任者　：　入澤　篤志　（副院長・消化器内科診療部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は栃木県南部に位置する特定機能病院です。紹介症例及び重症例が多いですが、病院群輪番制病院でもあるため、独歩の内科急患対応・内科 2 次救急対応も市中病院同様に行っており、軽症例から重症例・稀な疾患まで幅広く様々な症例を経験できるのが特徴です。 また、全内科領域の症例に対応できるよう、計 9 内科を設置し内科専門医としての基本的臨床能力を獲得しつつ、さらに内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定した専門的な研修も併せて実践しています。 当院での診療にご興味がある方は是非獨協医科大学病院に研修にお越しください。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　76 名 日本内科学会総合診療内科専門医　41 名 消化器病学会　19 名 アレルギー学　会 11 名 循環器学会　25 名 リウマチ学会　　7 名 内分泌学会　8 名 感染症学会　0 名 腎臓学会　12 名 糖尿病学会　11 名 呼吸器学会　11 名 老年医学会　1 名 血液学会　11 名 肝臓学会　4 名 神経学会　12 名 消化器内視鏡学会　17 名

外来・入院患者数	内科全体の外来患者延べ数　236,583 人/年　　内科全体の入院患者延べ数　136,150 人/年
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することが出来ます。
経験できる技術・技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診･病病連携なども経験出来ます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会准教育施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会専門医教育施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設　など